

エコー検査が診断に役立った レミエール症候群の一例

淡路市・栗田医院 栗田 哲司（医師）

レミエール症候群（感染性血栓性頸静脈炎）は、主に10～20歳代の若者に嫌気性菌による急性咽頭炎から内頸静脈の感染性血栓性静脈炎を引き起こし、肺などの転移性感染症や敗血症を引き起こす怖い疾患である。今回、エコー検査で診断されたレミエール症候群を経験したので報告する。

症状は22歳女性、咽頭痛で発症、抗生剤のクラリスを5日間内服しても改善せず、悪寒戦慄を伴う40℃の発熱が持続するようになり、当院受診となった。頸部のエコー検査で右内頸静脈の狭窄と静脈血栓が認められ、血液培養で *Fusobacterium* sp. が同定されたためレミエール症候群と診断した。

幸い抗生剤の点滴で軽快したが、急性咽頭炎は日常診療で診る機会が多いだけに、念頭におくべきと思われる。